

市民のいのちと健康を守る市政に

8日、一般質問の2日目。日本共産党は細野りゅう子議員が質問に立ちました。その要旨を紹介します。



市議会議員（4期）

細野りゅう子

細野りゅう子市議は、施政方針で「安心して暮らせるまち」と市長が言うなら、地域で必要な医療、介護を受けられるよう整備すべきだと求めました。

救急体制や在宅医療の充実のために必要な連携を、病院や診療所を指導助言できる立場の保健所を活用して整備することを求めました。いきいき健康部長は「健康課と連携し、保健所の機能を活かしていきたい」と、答弁しました。深夜の小児初期救急再開を早急に再開をもとめるについては、「小児科開業医等に協力を求め、再開に向け努力している」と市民病院事務部長が答弁しました。

少人数学級の早期実施 図書館司書の配置を

また、30人学級実施を求める質問を行いました。国の予算が成立しない場合でも、小学一年の35人学級を実施するのかを確認し、他の自治体に比べて、大きく遅れている東京都の少人数学級を実施するように教育長会や市長会を通じて要望すると答えました。

また、ボランティアでお茶を濁して

あす 3月10日（木）
一般質問



佐々木とも子（3番目）

●市民の健康増進を図る健康診査事業の拡充を求めて
●木曾・山崎団地地域のまちづくりについて

佐藤よう子（5番目）

●福祉とくらしのいちはんの町田市に
●TPP（環太平洋連携協定）交渉参加について

公民館有料化 市民センターなど軒並み値上げ 1800万の市民負担増はやめよ

3月定例会には、「公民館有料化条例」をはじめとする市民・地域センター、市民フォーラム、文学館など市内18施設の値上げ条例が提案されています。

市長は「市民協働型都市」を掲げますが、その正体は受益者負担を前提にしたもの。一方で、今年度76億6千万円を使う「新庁舎は市民協働のシンボル」としています。

いる「学校図書館」について、教育の一環として司書を置くよう求めましたが、このまま図書ボランティアでおこなうと答弁しました。また、タイル壁がはがれそうになったり、雨水があふれそうになっている築後3年のマンションの安全性を求める住民の不安に添えて、町田市が現場で安全確認するように求めましたが、開発調整担当部長は「書類で安全は確認している」と答弁しました。

